令和７年６月１１日
調布市立第六中学校
校 内 通 級 教 室
No.３

Rainbow

All for六中 ※このお便りは全校向けお便りです。

～六中ユニバーサルデザイン～

定期試験と夏休みが近づいてきました。校内通級教室では、今年度も**学校全体の**インクルーシブ教育の構築に向けて取り組み、この「Rainbow」で様々な情報をお伝えしていきます。今月は、本校での定期試験におけるユニバーサルデザインについてと、タイプに応じた声のかけ方についてお話します。

六中 定期考査におけるユニバーサルデザイン

現在、六中では生徒の皆さんがテストを受けやすいように、試験問題のレイアウトを統一、A4 冊子型、表紙あり、大問表記、ページ番号の表記等を都立入試に合わせています。問題用紙では、フォント【MS 明朝】を推奨しています。

さらに**『国語以外の教科は解答に漢字指定をしない』**こととしています。

漢字がわからないときはひらがなで書いても OK です。
漢字で書いて不安な時は、ふりがなを振ってください。その場合はふりがなを優先して採点します。

〇の例（正解：本初子午線）

問題：北極点からイギリスのロンドンを通り、南極点まで結ぶ線の名称を答えなさい。

書いた答え：**本初子後線**（ほんしょしごせん） 「漢字」が間違っているが「ふりがな」が合っている。→正解

書いた答え：**ほんしょしごせん**「かな」が合っている →正解

×の例（正解：裸子植物）

問題：マツのように胚珠がむき出しになっている植物のことを何植物というか答えなさい。

書いた答え：**裸子植物**（ひししょくぶつ） 「漢字」が合っているが「ふりがな」が間違っている →不正解

各教科の定期考査の表紙にも表記をして、生徒の皆さんに伝えています。（裏面）
ただし、高校入試では志望校によっては解答に漢字が必要な場合がありますので、授業を通して各教科担当から伝えていきます。

タイプに応じた声のかけ方

テストが終わると１か月程で夏休みが始まります。教員にとっては「しばらくの間学校から離れて普段できない体験をする中で、様々な面が成長する期間」ですが、保護者の皆様にとってはいかがでしょうか。
皆様の中には「子供がずっと家にいて、どんな関わり（どんな声掛け）をしたら良いか悩んでしまう。」という方もいるかもしれません。今回はそんな方に、ちょっとでも役立つお話をします。

性格統計学という考え方があります。この考えの面白いところは、「人を４つの性格タイプに分けて、それぞれのタイプに合った伝え方や、相手の言葉の受け止め方を身につければ、お互いにストレスを感じず、関係が円滑になる」という理論です。簡単に例えて言うと、赤い球を受け取ると喜びを感じる人に対して、青い球を渡してしまうと、相手は喜ばずにむしろストレスを感じてしまうということです。だから、赤い球を好む人には、赤い球を渡しましょう、という話です。

ちなみに４つのタイプとは

①	ピース・プランニングタイプ	：相手を優先し、物事に計画的な性格
②	ピース・フレキシブルタイプ	：相手を優先し、臨機応変で直感的な性格
③	ロジカルタイプ	：自分を優先し、物事に計画的な性格
④	ビジョンタイプ	：自分を優先し、臨機応変で直感的な性格

この４つのタイプの違いが分かるように、次のような場面例を出してみます。

場面例

普段は家の片づけや、掃除を一切手伝わない子供が、リビングの机の上を少しだけだが片づけてくれました。このとき、親の自分はどう声掛けをしますか。

①、②に共通するのは相手の気持ちや考えを優先し、気を遣う平和＝ピース的な性格です。故に、他者の役に立つのを意気に感じ、喜びにできる人です。①、②の違いは①は計画的に進めたい、つまり論理的に考えるのが好きで理由や結論を明確にしたい人で、②は臨機応変で直感的なので、長い説明や言葉よりも短くて心に訴える言葉を好みます。

※**①への言葉がけ例**：「机の上をきれいにしてくれたおかげで、夕食の準備がやりやすくなるから、本当に助かったわ。」
②への言葉がけ例：「皆のために、有難う！」

③ロジカルは自分視点（「本人が〇〇」と言う言葉が入りやすい）で論理性を求めるタイプです。
④ビジョンも自分視点なのですが、こちらは直感的な言葉を好みます。

※**③への言葉がけ例**：「リビングの机を片付けられるのは、きれいにした方が良いって思えるようになったのね。大人になった証拠よ。」
④への言葉がけ例：「今日のあなたは最高ね！」「偉いね！」「すごいね！」

もし、③のロジカルタイプの人に、④のような「最高！」「偉いね！」などの言葉がけをすると、子ども扱いされたような気持ちになり、逆に反感を覚えるかもしれません。又、④の人に、説明的な言葉で素晴らしさを話しても、理屈っぽくて伝わらないこともあります。

以上、性格に応じて人には伝わりやすい言葉の傾向があり、それぞれの性格に合った（＝言われて喜びを感じる）言葉を選べば、今まで伝わらなかったことが伝わるようになる、という話でした。
誰しも喜びを感じれば続けたくなりますし、繰り返したくなるものです。伝わる言葉で声をかければ、良い行いは増えていくものです。子供がどんなタイプかを見極め、言葉選びをしてみようと思えば、声掛け自体に楽しさが出てくるかもしれません。

一方、修正してほしい行動への声掛けは難しいです。「宿題もしないし、スマホばかりで…」と子供にストレスを感じてしまい、タイプに合った声掛けなんて考える気持ちになれない、というのは現実にありそうです。
そんな時、ついつい怒ってしまうものですが、怒るというのはストレスを直接的にぶつけることです。自分のストレス解消にはなりますが、子供には怒られた記憶だけが残り、なぜその行動が良くないのかを理解できていないことが多いのです。又、怒ることは一番即効性がある一方で子供は慣れてしまい、さらに激しい怒り方をしないと効果がなくなる、という悪循環の面もあります。

思い通りにならない他人を、自分の思い通りにしようとすれば、自然とストレスが溜ります。親心で、ついつい口を挟みたくなるのはよく分かりますが、本来、やる・やらないは本人の問題であって、親の問題ではないのです。その全ての責任を取らなくてはいけないのも本人です。責任を負わせないと、いつまでたっても子供は子供のままです。
「やるように促せたらいいな、そのための声掛けができればいいな」くらいの心のゆとりを持った声掛けの方が上手くいきます。うるさがっていても、「自分のことを見てくれている」というのは安心感として子供に残ります。「子供には手出しせず、見放さず」です。親子共々、夏休みを楽しんでください。